

# 霧ヶ峰基金会報

2010年6・7月号（通算36号）

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0061 長野県諏訪郡下諏訪町3236番地 Takafactory2 階

TEL 090-9668-3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



## 春のおと

高原には、里よりだいぶゆっくりと春がやってきました。

オレンジ色のチーフを胸にノビタキのオスが草原でさえずり、キジの「ケーン」と響く声。空高くからは飛行機のエンジン音のようなオオジシギのディスプレイフライト。

めきめきと日ごとに延びる初々しい若緑の草木たち。ぽくぽくと開くキジムシロやフデリンドウ、ニリンソウなどの小さな花たち。

春の草原にはにぎやかに、命の音が満ちあふれます。

# 2010 年度活動計画

NPO 法人霧ヶ峰基金では 2010 年度の活動を以下のように計画しております。  
本年度も皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【主な活動】

### ☆ガイド受託（随時）

ガイド 1 名あたり 10 名程度お客さまをご案内し、きめの細かいサービスの提供を行ないます。

霧ヶ峰の自然環境や成り立ち、動物たちの暮らしなどをわかりやすくお伝えし、感動とともに霧ヶ峰の魅力を発信してまいります。



### ☆モニタリング調査

無雪期の 5～10 月を主に植物相、水環境についてモニタリング調査を引き続き実施いたします。

また、環境省が行う「モニタリングサイト 1000 里地調査」へデータを提出し、日本国内の生態系の変化をとらえる活動にも参加しています。

### ☆オリジナルグッズ企画・販売

霧ヶ峰をモチーフとしたグッズを作成し、お客さまと霧ヶ峰をつなぐツールとして通年販売いたします。

売上は全額、NPO 法人霧ヶ峰基金の事業活動に活用されます。

### ☆会報発行

活動の状況を会員の皆様や関係機関にお知らせいたします。また、ブログ等を通じて活動の様子をタイムリーにお伝えいたします。

2010 年	4 月	2009 年度「モニタリング 1000」データ提出		
	5 月	モニタリング調査再開（～2010 年 10 月） 会報発行		
	6 月	定期総会 開催 ガイド受託		
	7 月	ガイド受託 会報発行		
	8 月	ガイド受託		
	9 月	ガイド受託 会報発行		
	10 月	上諏訪街道「秋の呑み歩き」出展 信州・諏訪温泉泊覧会「ズーラ」プログラム提供		
	11 月	信州・諏訪温泉泊覧会「ズーラ」プログラム提供 会報発行		
	12 月	事務所大掃除		
2011 年	1 月	会員向けプログラム「初詣さんぽ」開催 会報発行		
	2 月	会員向けプログラム「雪みちさんぽ」開催 ガイド受託		
	3 月	上諏訪街道「春の呑み歩き」出展 会報発行 活動報告書発行		

モニタリング調査やガイド補助など、活動を一緒に活動をサポートして下さる方を歓迎いたします。  
また、画像や霧ヶ峰に関する文献や民具などの資料収集も行っています。  
詳細は、事務局にお問い合わせください。

## 2010 年度の会費納入のお願い

活動は会員の皆さまの会費により支えられています。どうかお早目のご納入をお願いいたします。

このたび、事務局で会費納入のご確認ができなかったかたに払込票を同封いたしております。

なお、払込票のお届けとご納入と行き違いでございましたら、ご容赦ください。

# 「みんなでつくる信濃の国の物語」 受賞報告

2008～2009年に財団法人長野県緑の基金、長野大学、長野県内の13地域の制作チームなどが連携し、制作した子ども向けの教材コンテンツ「みんなでつくる信濃の国の物語」が、インターネット上で公開されています。

長野県内の各地で実施した自然体験・地域体験プログラムを映像で記録し、インターネット上でどなたでもご覧になることができます。

このうち、「天空の博物館 霧ヶ峰を歩こう」について、長野県諏訪地方事務所環境課と霧ヶ峰自然保護センターが企画し、霧ヶ峰基金スタッフがナビゲーター役をつとめました。

この一連のコンテンツが「第10回インターネット活用教育実践コンクール」(主催：文部科学省)で社会教育部門文部科学大臣賞を受賞しました。

4月20日(火)に長野大学・前川道博先生、長野県緑の基金・丸田藤子副理事長、諏訪地方事務所環境課、霧ヶ峰自然保護センターのみなさまと当法人理事長・小原宏文、事務局・降旗香代子が、下諏訪町役場を訪問し、青木悟町長と小沢貞義教育長に受賞を報告いたしました。



後列左より 青木悟下諏訪町長、小沢教育長  
前列左より 長野大学前川道博先生、霧ヶ峰基金小原宏文理事長、  
降旗香代子、長野県緑の基金丸田藤子副理事長

## 森の恵み地域の恵み探検隊

「みんなでつくる信濃の国の物語」

～天空の博物館・霧ヶ峰を歩こう～

<http://megumi.midori-joho.gr.jp/>

## 2010年のモニタリング調査を始めました。



冬の間、お休みをとっていたモニタリング調査(植物相、水環境)を5月23日(土)から再開しました。

今年は5月に入っても、一日の最低気温-5℃を下回るような非常に寒い日が幾日もあり、その影響もあるのか植物の生育は遅れ気味の感があります。

ここ数年くらいの様子ですと、クリンソウのつぼみが観察できたり、旧御射山神社の“ヤマナシ”のつぼみが満たれたりするのですが、今年、クリンソウはやっと葉を広げたところ。“ヤマナシ”は葉も開いていない状態でした。大ぶりの花が特徴のサクラスミレにもついに会わず…。

結果としては確認できた対象種が少なく、ちょっと寂しい結果でし

たが、これから季節が進むにつれ開花が例年に追いつくのかどうか、来月の調査結果が楽しみです。

★調査のお手伝いをお願いします!★

モニタリング調査のお手伝いをしてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

来月は6月下旬の土・日に予定しています。

(担当：降旗香代子)

## 活動記録(2010年3月1日～4月30日)

3月	2日	・信州・諏訪温泉泊覧会「ズーラ」 説明会参加
	9日	・中日新聞 取材対応
	20日	・上諏訪街道「春の呑み歩き」出展
	27日	・会報 2010年4・5月号発行
4月	20日	・第10回インターネット活用教育実践コンクール受賞報告(下諏訪町) ・信州・諏訪温泉泊覧会「ズーラ」 打ち合わせ
	21日	・情報収集(霧ヶ峰高原)
	25日	・情報収集(霧ヶ峰高原)

## いつもご支援ありがとうございます。

寄付金（2010年3月1日～4月30日） 46,000円いただきました。

長野県諏訪郡：中村さま、東京都大田区：守田さま、茨城県取手市：長谷さま  
愛知県名古屋市：長谷川さま、神奈川県横浜市：中村さま、ほか大勢のみなさま  
これらのご寄付は活動を通じて霧ヶ峰の環境保全とエコツーリズムの推進に活用されます。  
ご支援に心より感謝申し上げます。

霧ヶ峰基金は活動の趣旨にご賛同してくださる方の寄付金を、随時受け付けております。

金額は1円以上から、下記の郵便口座までお願いいたします。  
全国の郵便局からいつでもお手続きいただけます。（手数料はご負担ねがいます。）

- ・口座番号 00520-7-44684
- ・加入者名 特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

※ご寄付をいただいたかたのお名前の取り扱いについて

寄付金をいただいたかたにつきまして、金額等に関わらずご本人様が希望されない場合を除き、会報上にてお名前をご紹介させていただきます。あらかじめご了承ください。（お名前のご紹介を希望されない方は、その旨をお知らせください）

## 車山湿原 春植物散策

4月、5月の諏訪地方は7年に1度の大祭「御柱祭」に20万人が酔いしれました。

一方、霧ヶ峰は静かに春が明けたばかりで植物の萌芽もこれから本格化です。そんなゆっくりと時間が過ぎていく4月、5月に車山湿原を散策してみました。

4月の車山湿原はまだ緑のものはチラチラ目に入る程度あり、枯れ草の草地です。その中、数は多くはありませんが点在していたのがザゼンソウです。

車山湿原では、ササやレンゲツツジが生育領域を拡大中であり、湿性植物であるザゼンソウの分布領域はやや劣勢の中、微妙なバランスのなかで生育していました。

ザゼンソウの茶色の葉に包まれた、黄色の花の塊のような花軸で発熱していることが近頃の研究でわかったようです。ザゼンソウ自信の熱で雪を溶かし、地上に出現しているそうですが、その発熱力も日本各地の生息地によって異なるかもしれません。



標高1770mに位置する車山湿原に生育しているザゼンソウの発熱力は、霧ヶ峰の厳しい自然環境から推測して他の地域のザゼンソウより強いかもしれません。

将来、ザゼンソウの発熱のメカニズムを応用した発熱装置、あるいは遺伝資源として、車山湿原のザゼンソウが注目される日が来るかもしれません。その日までしっかり生育してくれればと思います。



雪のなくなった5月、湿原に通じる登山道の脇にはショウジョウバカマの花がポツポツと見られるようになりました。

ショウジョウバカマは日本海側の多雪地帯の多く、このへんでは少ないです。一方、垂直分布は広く、里山から高層湿原までと標高を選ばないようです。

車山湿原のショウジョウバカマも日本海側のものと何か違う特性があるかもしれませんが、これは今後の研究の成果を待ちたいところです。

同一の種でも、生育地により、若干の差異があることが近頃言われている「生物多様性」の一つであります。そういう観点で霧ヶ峰の植物を捉えなおすと、また新しい発見があり、有用な生物資源の宝庫でもあるとも言えます。

（小原宏文）

次号会報 2010年8・9月号は2010年7月下旬ころ発行予定です。